鎌倉時代

名前

問1　鎌倉時代後半、二度にわたる元軍の侵攻（元寇）を退けた後、幕府の支配体制は揺らぎ始めました。戦いには勝利したものの、幕府に仕える「御家人」の生活が困窮し、不満が高まった理由として最も適切な説明を選びなさい。（2018年 秋田県公立入試 類似）

1. 幕府が御家人よりも足軽を優遇する軍制改革を行ったため、伝統的な武士の特権が失われた。
2. 元軍に勝利したことで宋との貿易が途絶え、物資が不足して急激なインフレーションが起きた。
3. 元軍との戦いにおいて、幕府が御家人に領地の半分を返還させる「徳政令」を強制的に出した。
4. 防衛のための戦いであったため、幕府は恩賞として御家人に分け与える新たな土地を確保できなかった。

問2　鎌倉時代後半に起きた「元寇」をめぐる歴史的背景とその影響について述べた文として、正しいものはどれですか。（2018年 奈良県公立入試 類似）

1. 元寇による防衛指揮を通じて執権の権力は一時的に衰退し、足利尊氏による新しい武家政治が始まる直接のきっかけとなった。
2. 元軍の再来襲に備えて築かれた石の防塁は、九州沿岸だけでなく、鎌倉の海岸線一帯にも同様の規模で築かれた。
3. 北条時宗は元軍を退けた後、恩賞として博多湾沿いの石の防塁周辺の土地を、手柄を立てた御家人たちに分け与えた。
4. 八代執権の北条時宗は、フビライ・ハンからの臣下になる要求を拒否し、九州北部の防備を固めて元軍を迎え撃った。

問3　鎌倉時代後半、元寇（蒙古襲来）による軍役の負担や分割相続の影響で、多くの御家人が生活に困窮しました。幕府がこうした御家人を救済するために、彼らが売却・譲渡した領地を無償で取り戻させることを命じた法令を何といいますか。（2018年 奈良県公立入試 類似）

1. 武家諸法度
2. 公事方御定書
3. 徳政令
4. 御成敗式目

問4　1221年に起きた承久の乱の結果、鎌倉幕府の支配体制はどのように変化したか、その説明として最も適切なものを選びなさい。（2021年 静岡県公立入試 類似）

1. 初めて全国に守護と地頭を配置し、軍事・警察権と年貢徴収権を掌握した。
2. 京都に六波羅探題を設置して朝廷の監視を強め、幕府の支配が全国に及ぶようになった。
3. 源頼朝が征夷大将軍に任命され、名実ともに武家政権が誕生した。
4. 御成敗式目を制定し、西国の地頭たちに幕府独自の裁判基準を示した。

問5　鎌倉時代において、源頼朝が設置した「守護」と比較した際の「地頭」の特徴として、その職務内容を具体的に説明したものはどれか。（2016年 奈良県公立入試 類似）

1. 国単位で配置され、大番催促などの軍事・警察権を掌握した
2. 朝廷の監視や西国の御家人の統制を目的として、京都に置かれた
3. 幕府の政務や財政、裁判などを担当する中央組織の長を務めた
4. 各荘園や公領に配置され、年貢の徴収や土地の管理を行った

問6　1192年に源頼朝が征夷大将軍に任命され、鎌倉幕府が本格的に始動した時期の出来事について述べた文として正しいものはどれですか。幕府が全国の荘園や公領に設置し、土地の管理や年貢の取り立てを行わせた役職名を含んだものを選びなさい。（2022年 徳島県公立入試 類似）

1. 幕府は侍所を設置し、全国の公領における土地の測量と年貢の割り当てを行った。
2. 幕府は六波羅探題を設置し、西日本の荘園における年貢の徴収を直接指揮した。
3. 幕府は守護を設置し、全国の荘園ごとに年貢の取り立てを細かく管理させた。
4. 幕府は地頭を設置し、現地の土地管理や年貢の取り立て、治安維持を担わせた。

問7　鎌倉幕府が源頼朝の時代に全国に設置した役職のうち、国ごとに置かれ、主に軍事や警察の役割を担った役職を何というか。（2023年 岐阜県公立入試 類似）

1. 地頭
2. 守護
3. 検非違使
4. 執権

問8　源頼朝が征夷大将軍となって幕府を開いた後、将軍が暗殺されるなど鎌倉幕府が混乱した時期がありました。この機に乗じて、1221年に後鳥羽上皇が幕府をたおすために兵をあげたものの、最終的に敗北した歴史的事件を何といいますか。（2019年 香川県公立入試 類似）

1. 壬申の乱
2. 保元の乱
3. 平治の乱
4. 承久の乱

問9　源頼朝が征夷大将軍となってから（1192年）、鎌倉幕府が滅亡するまで（1333年）の期間に起こった出来事の組み合わせとして、歴史的背景が整合しているものを選びなさい。（2025年 愛媛県公立入試 類似）

1. 聖徳太子による冠位十二階の制定と、北条氏による執権政治の確立
2. 織田信長による天下統一の推進と、後醍醐天皇による建武の新政
3. 後鳥羽上皇が倒幕を試みた承久の乱と、困窮した御家人を救うための永仁の徳政令
4. 平清盛が太政大臣となったことと、足利義満による南北朝の合一

問10　鎌倉時代に描かれた定期市の様子を伝える資料には、多くの人々が集まる市のなかで、踊りながら念仏を唱えて布教活動を行う僧侶の姿が見られます。この人物が、民衆の救済を目指して開いた宗派の名称を答えなさい。（2021年 香川県公立入試 類似）

1. 時宗
2. 浄土宗
3. 臨済宗
4. 浄土真宗

問11　元寇後の社会情勢と鎌倉幕府の対応について説明した次の文章のうち、当時の状況を正しく述べているものはどれですか。（2019年 徳島県公立入試 類似）

1. 北条氏に権力が集中する一方で、十分な恩賞を得られず困窮した御家人が領地を質入れしたため、幕府は借金の帳消しを命じたが、かえって経済の混乱を招いた。
2. 商業の発達により力を持った商人が御家人の領地を独占したため、幕府は座を廃止して自由な取引を認めたが、有力な寺社の強い反発を招いた。
3. 重い年貢の負担に苦しむ農民が各地で大規模な一揆を起こしたため、幕府は年貢の軽減を命じたが、これによって幕府の財政が急激に悪化し、滅亡の原因となった。
4. 参勤交代の負担によって生活が苦しくなった御家人の不満を抑えるため、幕府は江戸への滞在期間を短縮したが、諸大名の統制が困難になった。

問12　13世紀、モンゴル帝国（元）が日本へ侵攻してきた際、鎌倉幕府の執権であった北条時宗が、二度目の侵攻（弘安の役）に備えて博多湾の沿岸に行った具体的な対策として、最も適切なものはどれですか。（2022年 香川県公立入試 類似）

1. 朝廷の権限を強め、全国の武士を朝廷の指揮下に置くことで団結を図った
2. 石積みの壁である防塁（石築地）を築き、敵の上陸を妨げる準備をした
3. 九州の御家人たちをすべて関東に呼び戻し、鎌倉の防衛を最優先した
4. 元との貿易をさらに拡大し、経済的なつながりを強めることで和睦を求めた

問13　北条泰時が定めた御成敗式目（貞永式目）の内容には、「たとえ土地の本来の持ち主が別にいたとしても、武士が20年の間その土地を実際に支配し続けているならば、その支配権を正式に認める」という規定があります。このような基準が設けられた歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。（2026年 秋田県公立入試 類似）

1. 承久の乱の後、新たに任命された地頭と荘園領主との間で土地トラブルが頻発し、裁判の迅速な解決が求められたため。
2. 朝廷の権威を弱めるために、律令などの古い公家法を全面的に廃止し、全国に武家独自の土地制度を強制したため。
3. 貨幣経済が浸透し、土地を担保に借金をする武士が増えたため、彼らの生活を保護するために徳政令を出したため。
4. 元寇の際の恩賞が不足したため、武士が有力な農民の土地を強制的に奪うことを幕府が合法化しようとしたため。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 防衛のための戦いであったため、幕府は恩賞として御家人に分け与える新たな土地を確保できなかった。	鎌倉幕府の主従関係は、将軍が領地を保証・支給する「御恩」と、御家人が軍役を果たす「奉公」で成り立っていました。しかし、元寇は外国からの侵略を阻止する防衛戦であり、勝利しても奪える敵地がなかったため、莫大な戦費を負担した御家人に十分な恩賞を出すことができませんでした。これが幕府への忠誠心を低下させ、倒幕への動きに繋がりました。
問2	答え 4 八代執権の北条時宗は、フビライ・ハンからの臣下になる要求を拒否し、九州北部の防備を固めて元軍を迎え撃った。	モンゴル帝国のフビライ・ハンは、日本に対して服属を求める使節を何度も送りましたが、鎌倉幕府の八代執権であった北条時宗はこれを拒否する姿勢を貫きました。時宗は、元軍の再来襲に備えて博多湾沿いに石の防塁を築かせるなど、緊迫した状況下で九州北部の防衛拠点を強化しました。元寇の防衛に成功したものの、この戦争は防衛戦であったため幕府が得た新たな領土はなく、御家人に十分な恩賞を与えられなかったことが、その後の鎌倉幕府衰退の要因の一つとなりました。
問3	答え 3 徳政令	鎌倉幕府は御家人の生活を支える基盤である領地（土地）を守るため、永仁の徳政令を発令しました。これは借金の担保として手放した土地を無償で返させるという強力な経済救済措置でしたが、結果として金銭の貸し借りが困難になり、社会経済を混乱させる原因にもなりました。
問4	答え 2 京都に六波羅探題を設置して朝廷の監視を強め、幕府の支配が全国に及ぶようになった。	承久の乱で朝廷側に勝利した幕府は、再発防止のために京都に六波羅探題を置いて朝廷を厳しく監視しました。また、上皇側に味方した貴族や武士の所領を没収し、そこに新たに地頭を任命したことで、それまで支配が及びにくかった西国（西日本）を含め、幕府の支配力が全国的に強化されました。守護・地頭の設置自体は源頼朝の時代から始まっていたため、混同しないよう注意が必要です。
問5	答え 4 各荘園や公領に配置され、年貢の徴収や土地の管理を行った	守護が「国」という広い単位で置かれ、軍事・警察的な職務を主に担ったのに対し、地頭は「荘園」や「公領」というより細かな土地の単位ごとに配置されました。地頭の主要な職務は、現地での年貢の取り立てや土地の管理、治安維持であり、武士が農村支配を通じて経済的基盤を固める役割を果たしました。
問6	答え 4 幕府は地頭を設置し、現地の土地管理や年貢の取り立て、治安維持を担わせた。	鎌倉幕府を樹立した源頼朝は、朝廷から設置の許可を得て、全国の荘園や公領に「地頭」を配置しました。地頭は軍事的な役割だけでなく、現地の責任者として年貢の徴収や土地の管理を行う権限を与えられていました。これにより、幕府の支配力が全国の土地に及ぶようになりました。なお、国ごとに置かれ軍事・警察を担ったのは「守護」であり、荘園ごとに置かれた地頭とは役割と設置単位が異なります。
問7	答え 2 守護	源頼朝が1185年に朝廷に認めさせて設置した役職です。各国の武士を統率して、京都の御所の警護（京都大番役の催促）や、謀反人・殺人犯の逮捕といった軍事・警察的な任務にあたりました。これに対し、荘園や公領ごとに置かれて土地の管理や年貢の徴収を行ったのは地頭です。
問8	答え 4 承久の乱	鎌倉幕府では源氏の将軍が3代で途絶えるなど、政治的な混乱が生じていました。この状況を見た後鳥羽上皇は、朝廷の権力を回復させるために幕府を倒す兵をあげましたが、北条政子の呼びかけに応じた御家人たちの活躍により、幕府軍に敗れました。これにより、幕府の支配力は西日本にも及ぶようになりました。
問9	答え 3 後鳥羽上皇が倒幕を試みた承久の乱と、困窮した御家人を救うための永仁の徳政令	鎌倉時代は1192年の幕府成立から、1333年の新田義貞による鎌倉攻めまでの期間を指します。この期間内には、幕府の権威を揺るがした承久の乱（1221年）や、元寇後の社会不安を背景に出された永仁の徳政令（1297年）が含まれます。平清盛は平安時代、足利義満や織田信長はそれ以降の時代の人物であり、聖徳太子は飛鳥時代です。
問10	答え 1 時宗	一遍が時宗の教えを広める際、各地の交通の要所や、商業活動が活発化していた定期市などを訪れたことが背景にあります。農業生産力の向上によって各地で「三斎市」などの定期市が開かれるようになった社会状況を、一遍は布教の場として効果的に活用しました。
問11	答え 1 北条氏に権力が集中する一方で、十分な恩賞を得られず困窮した御家人が領地を質入れしたため、幕府は借金の帳消しを命じたが、かえって経済の混乱を招いた。	元寇以降、北条氏の得宗（本家）に権力が集中する一方で、戦費を自ら負担した御家人たちは深刻な貧困に陥りました。幕府は徳政令を出すことで御家人の所領を回復させようとしましたが、これにより借金ができなくなった御家人の生活はさらに苦しくなり、幕府への不満が武士全体に広がることとなりました。これが後の幕府滅亡につながる大きな要因の一つです。
問12	答え 2 石積みの壁である防塁（石築地）を築き、敵の上陸を妨げる準備をした	北条時宗は、一度目の侵攻である文永の役の反省を活かし、二度目の襲来に備えて博多湾の沿岸約20キロメートルにわたって防塁（石築地）を建設させました。この防備が功を奏し、弘安の役では元の軍勢が容易に上陸できず、日本側は有利に戦いを進めることができました。
問13	答え 1 承久の乱の後、新たに任命された地頭と荘園領主との間で土地トラブルが頻発し、裁判の迅速な解決が求められたため。	1221年の承久の乱を経て幕府の権限が西日本にも及ぶようになると、各地で地頭と荘園領主（公家や寺社）との対立が激化しました。北条泰時は、武家社会に馴染みの薄い複雑な公家法を用いるのではなく、武士の常識に基づいた公平な裁判の基準を明確に示すことで、武士たちの不満を解消し、幕府の統治を安定させる狙いがありました。この20年の支配を認める規定は、実態を重視する武士社会の考え方を反映したものです。